

令和3年度京都府立峰山高等学校学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階）

学校経営計画（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>○ 京都府北部の中核校として、伝統を継承しながら高い理想を求め続け、地域に信頼される学校づくりを推進する。</p> <p>○ 教育スローガン（校是）、教育方針、教育目標及び求める生徒像の具現化のため、全教職員が一体となって取り組む。</p> <p>○ 全教育活動を通して、生徒と教職員が共に成就感と感動を味わえる、明るくさわやかな学校づくりに努める。</p>	<p><b>【成果】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評価アンケート、「子どもを入学させてよかったと思っている」、「入学してよかったと思っている」での高い肯定率</li> <li>・ホームページの一新やInformationの充実による保護者や地域の方々への教育活動の様子の効果的な発信</li> <li>・地域及び大学等の関係機関との連携によりいさなご探究（探究活動）が充実し、主体的な学びが充実した。</li> <li>・英語指導力向上事業の充実による英語4技能育成と希望進路の実現につながる英語力の育成</li> <li>・スマートスクール推進事業によるICT機器の有効活用についての充実をコロナ禍における学びの充実につなげることができた。</li> <li>・地元企業の連携・支援による機械創造科のインターンシップやデュアルシステムの充実及び近隣の小・中学校へのプログラミングの出前授業による生徒の自己肯定感の醸成と特色ある専門学科づくりの進展。</li> <li>・コロナ禍の厳しい状況においても、国公立四大への推薦・AO入試を含めた、延べ48名の合格。</li> <li>・コロナ禍の厳しい状況においても、早い段階で就職希望者の内定率は100%を達成。</li> <li>・毎朝の教職員による校門指導や生徒会を中心とした各種取組等を通し、規律ある学校生活が維持できた。</li> <li>・遅刻者数、自主学習時間、授業満足度において、概ね目標値を達成した。</li> <li>・携帯電話等の持込みや使用について、ルール、マナーを守り、授業等で効果的に活用できた。</li> <li>・積極的なスクールカウンセラーの活用と情報共有により支援が必要な生徒等への対応がより進んだ。</li> <li>・生徒による校内美化に関する新たな取組を通して、美化意識の向上が見られた。</li> </ul> <p><b>【課題】</b></p> <p><b>【全体】</b> ①各領域の重点目標及び具体的方策の焦点化と目標値の検討</p> <p><b>【特色化事業】</b> ②生徒への事業の周知方法の工夫と社会貢献意識の醸成 ③大学等の教育機関との連携やroots（京丹後市未来チャレンジセンター）を介した地域連携による事業促進</p> <p><b>【学習指導】</b> ④新しい学習指導要領に対応した指導・評価の在り方の検討 ⑤ICT機器を有効活用した教育の充実とBYODの組織的で効果的な運用 ⑥探究的な学習の更なる充実と主体的に学ぶ姿勢を育てるための授業改善に向けた組織的取組</p> <p><b>【生徒指導】</b> ⑦規範意識の更なる向上とICT機器の使用に関する情報モラルの育成 ⑧部活動加入率及び定着率の向上と学習と課外活動の両立に向けた体制の整備</p> <p><b>【進路指導】</b> ⑨分掌・学年部・教科等との連携による進路指導体制の更なる充実</p> <p><b>【人権教育】</b> ⑩人権学習の効果的な実施と日常の指導における自尊感情の涵養</p> <p><b>【家庭・地域連携】</b> ⑪ホームページやチャットツールを活用したタイムリーな情報発信 ⑫学校運営協議会やPTAの支援に基づく家庭・地域との更なる連携</p> <p><b>【図書・情報活動】</b> ⑬言語活動の充実に向けた図書館の多角的な利用の推進 ⑭行事等でのICT機器の有効活用とセキュリティ体制の維持</p> <p><b>【健康・安全指導】</b> ⑮生徒保健委員による美化意識の更なる向上 ⑯教職員のカウンセリングマインドの育成と組織的な教育相談体制の確立</p> <p><b>【特色ある専門学科】</b> ⑰教育活動と進路実現の更なる充実による魅力ある機械創造科の進化 ⑱地元企業・諸団体との連携強化（デュアルシステム・インターンシップの充実）</p>	<p>1 質の高い学力を定着させ希望進路の実現に繋げるとともにこれからの社会を生き抜いていくために必要な資質・能力を育成する。</p> <p>2 大学や地域との関係機関との連携を深めキャリア教育の充実を図るとともに、郷土を愛し地域社会へ貢献する態度を育成する。</p> <p>3 世界に貢献する高い志を持ち、グローバル化の進展に柔軟に対応できる人材を育成する。</p>

※評価は4段階とし、A～Dの記号で表記する。

A：十分達成できた B：ほぼ達成できた C：あまり達成できなかった D：ほとんど達成できなかった

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
府立高校特色化事業「グローバルネットワーク京都」	学力向上（アカデミックミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種コンテストへの参加や検定受検、「科学の教室」「人文科学の教室」への参加、高大連携事業への参加を促す。 【コンテスト参加、検定受検人数 延べ1000名以上】 【「科学の教室・人文科学の教室」実施件数年間7回以上】 【高大連携事業取り組み 肯定的評価 80%以上】</li> </ul>		
	コミュニケーション能力の向上（コミュニケーションミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合的な探究の時間（いさなご探究）を中心に、卒業生や企業人、留学生との交流を通して、コミュニケーション能力や国際性を育成する。 【年間授業件数3件以上】</li> </ul>		
	社会貢献意識の向上（コミュニティミネ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「コミュニティミネ」と題し、生徒が地域で学ぶ機会を積極的に設け、参加を促す。rootsや京都skyセンターと連携を図りながら積極的な活動を行う【80件以上】</li> <li>・探究活動を通じて地域活動を行う。 【地域活動参加発信活動 毎学期1回以上】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
学習指導	主体的学習態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務部・学年部・生徒指導部等が連携し、保護者の協力を得て、始業5分前登校を徹底させる。 【遅刻防止週間遅刻者数：1日平均2人以下】</li> <li>・各教科・学年等と連携して、計画性のある自主学習を推進する。【自主学習時間：1日平均2時間以上】</li> </ul>		
	教科指導力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力把握とICT機器を活用した授業手法の研究 【ICT機器の環境整備と授業手法の研究・公開】</li> </ul>		
	総合的な探究の時間における探究的活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究活動の取り組み内容を計画・立案し、円滑に進める。</li> <li>・探究的な活動についての教職員研修会を設ける。 【年間1回以上】</li> <li>・探究的な活動に関わる公開授業を実施する。 【年間3回以上】</li> <li>・持続的に探究活動に取り組む生徒を育てる。 【1～3年生3学期授業アンケートにおいて 探究活動は充実していた 90%以上】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
生徒指導	規範意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 校内外での規範意識の向上に努める。 【携帯電話に関する指導 30名以内】 【特別指導件数 5件以内】</li> <li>・ 学年部をはじめ、関係分掌との連携を密にし、いじめを含む問題事象の未然防止に努める。 【生徒指導部だより 年間15号以上発行】 【学年会での情報交換 年間 8回以上】</li> </ul>		
	特別活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 部活動の加入率と定着率を向上させるとともに、学習と部活動の両立ができる環境を作る。 【新入生部活動加入率 80%以上】 【部活動定着率93%以上】 【19時30分完全下校の徹底】</li> <li>・ 生徒会主催の活動を活発化させる。 【学校行事以外の生徒会主催の取組 5つ以上】</li> <li>・ ボランティア活動の推進、広報活動、新規連携 【新規連携事業 3件以上】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導	希望進路の実現	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教務部・学年部・各教科等との連携を強化し、生徒個々の学力・進路希望の実態に即した組織的な指導を行う。 【国公立大学合格者 延べ40名以上】 【就職内定率 100%】 【進路検討会 年間 4回以上】 【進路担任面談 年間 3回以上】</li> </ul>		
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3年間を見通した系統的かつ体験的・実地的な活動を通して、将来を展望した主体的な行動を促す。 【進路ガイダンス・講演会 6回以上】 【進路体験活動参加 延べ100名以上】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
人権教育	生徒および教職員の人権意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が相互に人権を尊重する意識を涵養する。 【生徒の実態に合ったホームルーム人権学習を計画・実施し、適切な事後指導を行う（各学年3回）。】</li> <li>・教職員の人権教育を推進する意識の向上を促す。</li> <li>・すべての教育活動を通じて生徒の自尊感情を高め、他人の人権を尊重する姿勢を育てる。 【&lt;生徒アンケート&gt;「生命や人権を尊重する指導が適切」 肯定率90%】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
家庭・地域連携	広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページや「峰高インフォメーション」によって、生徒の活動や学校の取組を幅広くタイムリーに発信する。 【&lt;保護者アンケート&gt;「広報活動が充実」 肯定率80%】</li> </ul>		
	地域・保護者・PTAとの連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三者面談、PTA総会、PTA事業、学校祭等のPTA共催・後援行事への積極的な参加を促す。</li> </ul> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・ツイッターを活用し、学校の様子をタイムリーに保護者に伝える。 【&lt;保護者アンケート&gt;「家庭と担任や学校との連携」 肯定率75%以上】</li> <li>【&lt;保護者・生徒アンケート&gt;「学校の情報は家庭に適切に伝えられている」 肯定率90%】</li> </ul>		

評価領域	重点目標		評価	成果と課題
図書・情報活動	読書活動の充実、図書館利用の促進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員や図書委員などが自身の読書体験や本の紹介を発信する機会を設け、生徒の読書活動を促進する。</li> <li>・図書館を活用した学習活動・特別活動の計画を促進し、活動をサポートする。</li> </ul> <p>【学校図書館が関わる各種コンクール・コンテストへの積極的な参加 各学年10件】</p>		
	校内LANの適切な運用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内LANの適切な管理・運用と研修により、情報を安全かつ効果的に活用し教育効果を高める。</li> </ul> <p>【校内LANにおける重大事象の発生が0件】</p>		

評価領域	重点目標	具体的方策		成果と課題
健康・安全指導	基本的・自立的な生活習慣の確立及び自己管理能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒保健委員(美化担当)の学期毎の清掃点検及びびクリーンプロジェクトの実施</li> <li>・生徒保健委員(保健担当)の生活アンケートの実施と保健委員会だよりの発行</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康課題のある生徒の相談活動の充実</li> </ul> <p>【学期に1回面談】</p>		
	感染症予防に対する意識を向上させる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Forms(アンケートツール)活用による健康状態の把握</li> </ul>		
メンタルヘルスの問題を早期に支援		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールカウンセラーを活用し継続した教育相談に取り組む【定例教育相談会議 年8回】</li> </ul>		
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・心身の不調につながる生徒に対し、継続した健康相談に取り組む【保健部会内 月2回】</li> </ul>		

評価領域	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
特色ある専門 学科	地域連携のさらなる拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デュアルシステム、インターンシップ、企業見学により職業指導を充実させ、地域に根差した人材育成に繋げる。 【2年生インターンシップ全員参加】 【3年選択授業対象者デュアルシステム全員参加】 【事前・事後指導5時間以上】 【地元就職5名以上】</li> <li>・「京都府織物・機械金属振興センター」、「京都職業能力開発短期大学校」等の近隣で利用可能な職業訓練機関での実習を充実させる。 【40時間以上】</li> <li>・小中学校向けの出前授業や校外イベント等で学科の活動を展示発表する。 【5件以上】</li> </ul>		

学校関係者 評価委員会 による評価				
-------------------------	--	--	--	--

次年度に向けた改善の方向性				
---------------	--	--	--	--